

日本海海戦113周年記念式典への参加

新緑の候とは名ばかりの寒暖の差が激しい天候不順な日が続いておりましたが、日本海海戦の戦勝日から113年たった5月27日（旧海軍記念日）は、夏も近づく小満の候、「天気晴朗なれど波高し」に思いをはせるに絶好な天気にも恵まれ、記念艦「三笠」艦内で、小野寺防衛大臣、小泉衆議院議員、上地横須賀市長、渡邊横須賀地方総監等多数の来賓者列席の元、三笠保存会による記念式典が挙行されました。



三笠公園（東郷元帥と記念艦「三笠」）

式典に先立ち、本年4月14日に昭和36（1961）年に記念艦「三笠」として復元・開艦以来、57年目で900万人の来艦者を達成した旨の報告がありました。

世界三大記念艦ともいわれる、英国のビクトリーはトラファルガー沖で西仏連合軍を破り英国をナポレオンの野望から救った海戦と言われています。英国国民は、未だ、国民挙げて祝い、語り継ぎ、英国国民の誇りある歴史の中核の一つと成しているということです。また、米英戦争で活躍した米国のコンスティテューションは、「憲法」と同列に位置付けられていることが艦名から推察できます。

佃三笠保存会会長の式辞にもありますが、日本海海戦は、ロシアの支配から日本とアジアを救った海戦で、「三笠」には日本の近代化を成し遂げ、日本海海戦に勝利し、国家の独立と安寧を守るため、心身の限りを尽くした明治の先達の思いが生きています。

明治150年の年に、この日本海海戦の勝利を国民挙げて祝える国となることに思いを致し三笠公園をあとにしました。

神奈川県隊友会事務局長 宮崎栄介